

# 2023年10月 紀南病院 研修医通信 Vol.133

東京大学医学部附属病院 研修医2年目 望月大也

た良先研験で。話を着しる来  
 来が田な経せた接か問まれ出  
 か院新義のまし直の訪じさは  
 し病の意心積まりるや感送で  
 ける医有対をきない一を搬修  
 光へ導て直験たにてパさに研  
 観学指っ当経た輪っル強院の  
 ・と、よや来いと困へ力病段  
 行れがに来外で々ではいて普  
 旅晴たえ外のせ方何に見な  
 はれし添、くさのて際をのた  
 に晴ま力く多も域にた子としし  
 県でりお多め験地活っ様こま  
 重かあのが含経は生行るる来  
 三豊論々手を「で常にせ見出さ  
 身自もので手字ンが見暮分と  
 出で部cal院てをイタにで自こ  
 梨のないmedical域テ方所宅段が  
 山会なmedと地一の療目普見り  
 は機れcoは始てン地宅でにい  
 僕修慣、院をしウた在人際謝た  
 研に導病外とタつるいたのし  
 たの活指大救修二いなししたま  
 し角生ご東は研ミとの難字方来  
 ま折。い。で域た水まが見の出  
 ざしたのしち、わ。在練防事  
 ごしま方まこた行圧た来訓消  
 うでび生来、まで血し本急・積  
 がとん選先出が。館高まで救し積  
 りま院しとでし公眠出よ防救研  
 あり病とこのま木不がに消急な  
 間あ南めるいき市でと療野救々  
 月が紀始送なだ下とこ診熊の様  
 ケととをを少たにこる、でい  
 2こい生修がい月す知護たまな

松阪市民病院 研修医2年目 吉元 琢真

る先し来るのい  
 なのと外れびざ  
 く医師急のご  
 寒級医救でう  
 肌上医救でう  
 うすなで接か  
 とと慮直しあり  
 とと慮直しあり  
 10月始め配当優  
 ををりたた患者  
 感先配しし1  
 に口なき来地す  
 い浜さだ出い  
 おは小たが広  
 おでこといの  
 然修てこて  
 自研のせぶて  
 のたる学もそ感  
 々しちく一、変  
 山でも多口々、大  
 る活はをオ方  
 れ生術とフので  
 ふた技このフが  
 あし、なでツと  
 緑美り重棟タこ  
 と充よ大病ス  
 海くにでの療送  
 いし導上後医を  
 美し指くのむ修  
 はがなて、をな  
 地での事で師有  
 紀南節方仕け護と  
 紀季生でだ看ひま

済生会松阪総合病院 研修医2年目 鈴木翔太

病い。松なにたで、ざに  
 南てたどの域まも。ご科  
 紀つしなと地。事たう外  
 になま方これたるしと、  
 時にき仕たぞしすまが来、  
 の域でのしれまたりきり將  
 生地験れ段そりたてです。  
 2年が経入普。なつも、す  
 2あがけはたと行活きでい  
 のと受でし験に生たたて  
 1みこや修ま解りたたつし  
 生しな数研きい釣しいかに  
 学親々台所で良で実てよみ  
 のし様の療かも船充えてし  
 学少ど重診とのにく教き乗  
 大らな急、こた日ごをを  
 重が修救たたるきのすと修と  
 三な研、ますでみ、こ研こ  
 手所が。をが休りなでる  
 す。勝療すたと話、あ々院け  
 で、診でしなおりん様病働  
 木り、いま診とたさに南で  
 鈴あ直なり健人つく密紀院  
 のも当らな、の行た丁、病  
 目と急わに種んにもくき南  
 年ご救交強接さりんして紀  
 2た、り勉なく釣さ優数た  
 医い務ま、子たを屋、多ま  
 修た業ありク、ジ飯がが、  
 研た棟はあワきアごた験り、  
 院い病体もやでにし経お  
 合せては自ら察が中しにて  
 病で診察ご診と夜味間重え  
 総さ修診とのこに美い貴考  
 阪を研もつるり、短。を  
 松習。務違所知わたとたと  
 会実た業は療でおし月しこ  
 生でし直と診い事まヶまむ  
 済院ま当阪いつ仕き1い進

県立総合医療センター 研修医2年目 山口拓真

病対外のな業ま医と定私院  
 南来院生ま卒りのほ限。病  
 紀外病先。学おでがたた南  
 た。急南田た大で域先まし紀  
 た救紀池し科し地介、ま、  
 し、ま、ま医加野紹りしで、  
 ま来たをき治参熊のわ感の  
 い外ま診だ自にびら関実す  
 ざ診。往たは習よかのとま  
 ご初た・い私実おくとるい  
 う、し療で。で町ツクあ思  
 と様ま診せた院浜ニツでと  
 が者き問さし病御リニ要い  
 り患た訪にまの、クリ重多  
 あ院た・際き域で。クがが  
 に入い来実だ地じしたのり  
 誠でて外をた鷺通し域わこ  
 てとせの療い尾をま地関る  
 しもさで診てや修しものす  
 まの加所ンせ修研感層と事す  
 い生参療イさ研。痛一々従ま  
 さ先に診ラ加のたとり方でし  
 だ藤修和ン参でしるよの院い  
 く佐研紀オに島でい院域病願  
 てになど・修離てて病地南お  
 け主々も来研らめっ中の紀く  
 受、様の外なか初わ市層後し  
 きは等生の々代はまの今ろ  
 引て修先で様時修てかりでよ  
 くし研藤所等生研しほよの非  
 快ま一佐療修字のと、めな是  
 をしコ、診研、で心りた身は  
 修とエは取のり院中ある出に  
 研容、て桃であ病をであ学際  
 域内応しの署も南院院で大た  
 地修対と島防と紀病病域科き  
 は研直修志消こ、南南地医て  
 のので、のにといたはどれ自戻  
 こ院心でも他とし療んさはに

鈴鹿中央総合病院 研修医2年目 田野千穂子

時疾病所、所要た  
 した系療が療重見  
 消化はし診けでに  
 過のりがど橋遊  
 で、るの桃れ杭遊  
 院、きい寄のが、是非  
 病、たて年た所した  
 南、たっおい療しま  
 紀、い残のて診ま  
 した、指象に上してれん  
 ました、こ印代混とをま  
 りにで80一に所れた  
 な、生外が唯々場ら  
 にな、先院とで方な  
 話、口。ん島の々忘  
 世阪た。と、民様ど  
 おはまはほは島はな  
 変、内なき者修中、に  
 大、院だ患研のの星  
 間、た。た、島いみた  
 月、た。は、離て休見  
 1ヶせ所たられり、で  
 す、きら療し限ま釣、時  
 す、いわ診まも患夜、し  
 で、て携和きスも、夜、  
 野、ぎに紀驚え候寝充  
 田、過般。にク候寝充  
 院、間科する姿ア天の  
 病、う内修れへた温、泉  
 合、いて研さ上し口、月  
 総、とし島院本ま、湯、  
 中、あ主、にた感、す、  
 鈴、鹿を修、気し痛、日、  
 鈴、鹿を修、気し痛、日、  
 鈴、鹿を修、気し痛、日、



よっちゃん行きました



病院からの景色